

2. 塩分の検証計算結果

(1) 大橋川の流量・塩分量

- 大橋川において流動観測が行われている平成12年と平成14年を対象にした計算結果は、大橋川の流量及び塩分量の観測結果を良好に再現している。

平均的状況である H12.10/16～10/25(10日間)と既往最大規模の高潮が発生した H14.8/29～9/6(9日間)において、大橋川松江地点の流量及び塩分量の計算値と観測値を比較した結果は、下図及び右図に示すとおりである。大橋川松江地点における通過塩分量の計算値と観測値の誤差は、高潮時の上げ潮時が約8%，高潮時の下げ潮時が約11%，平水上げ潮時が約1%，平水下げ潮時が約9%となっており、再現性は概ね良好である。

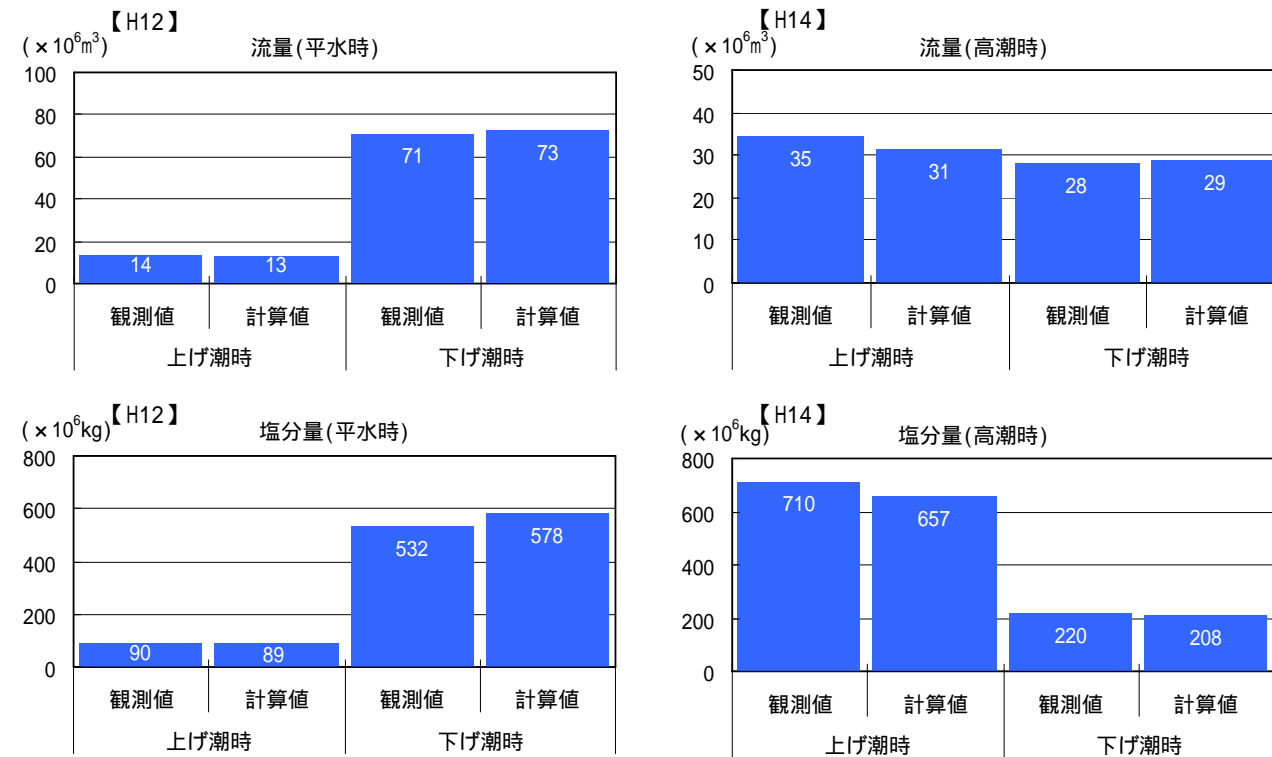


図 2.1 大橋川流量・塩分量の比較(H12,H14)

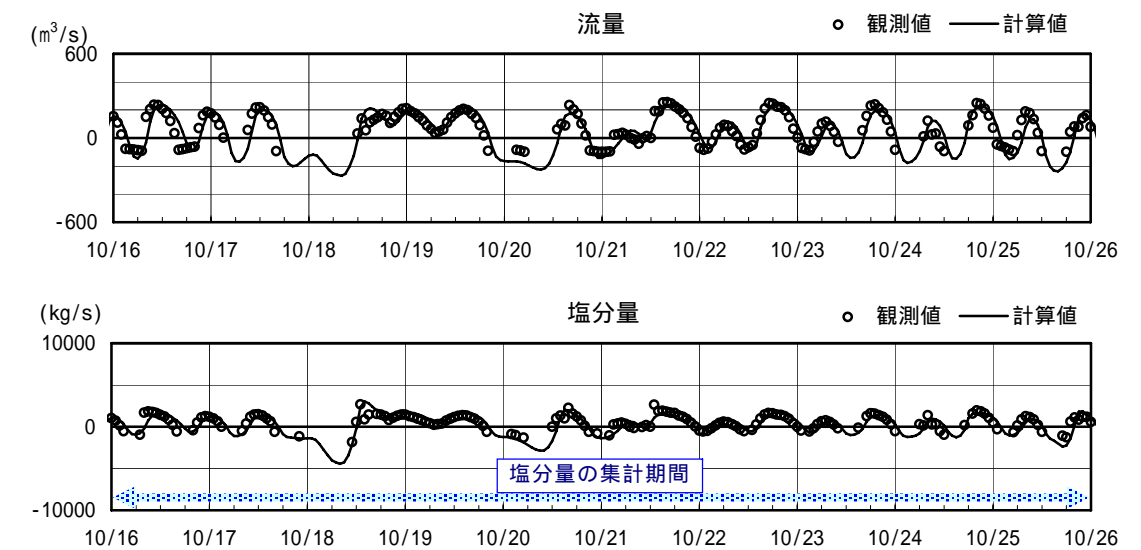


図 2.2 大橋川松江地点における流量・塩分量の時系列変化(H12.10/16～10/25)

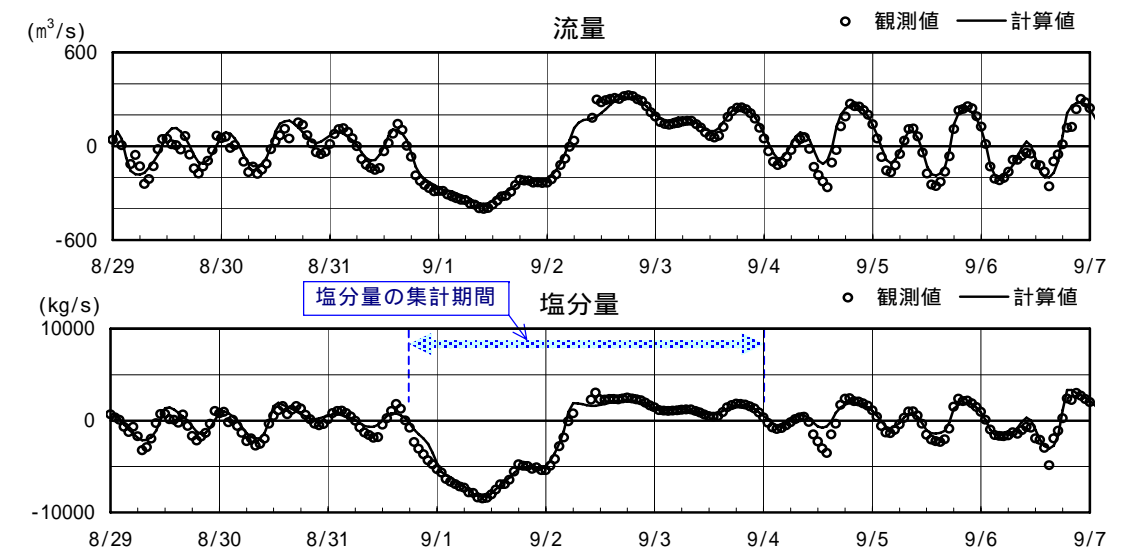


図 2.3 大橋川松江地点における流量・塩分量の時系列変化(H14.8/29～9/6)

(2) 大橋川の塩分

- 大橋川各地点における塩分の濃度別発生頻度は、観測結果と概ね同様の傾向を示している。

既往最大規模の高潮が発生した H14.8/29 ~ 9/6(9日間)の大橋川各地点における塩分の濃度別発生頻度を計算値及び観測値で整理して以下に示している。

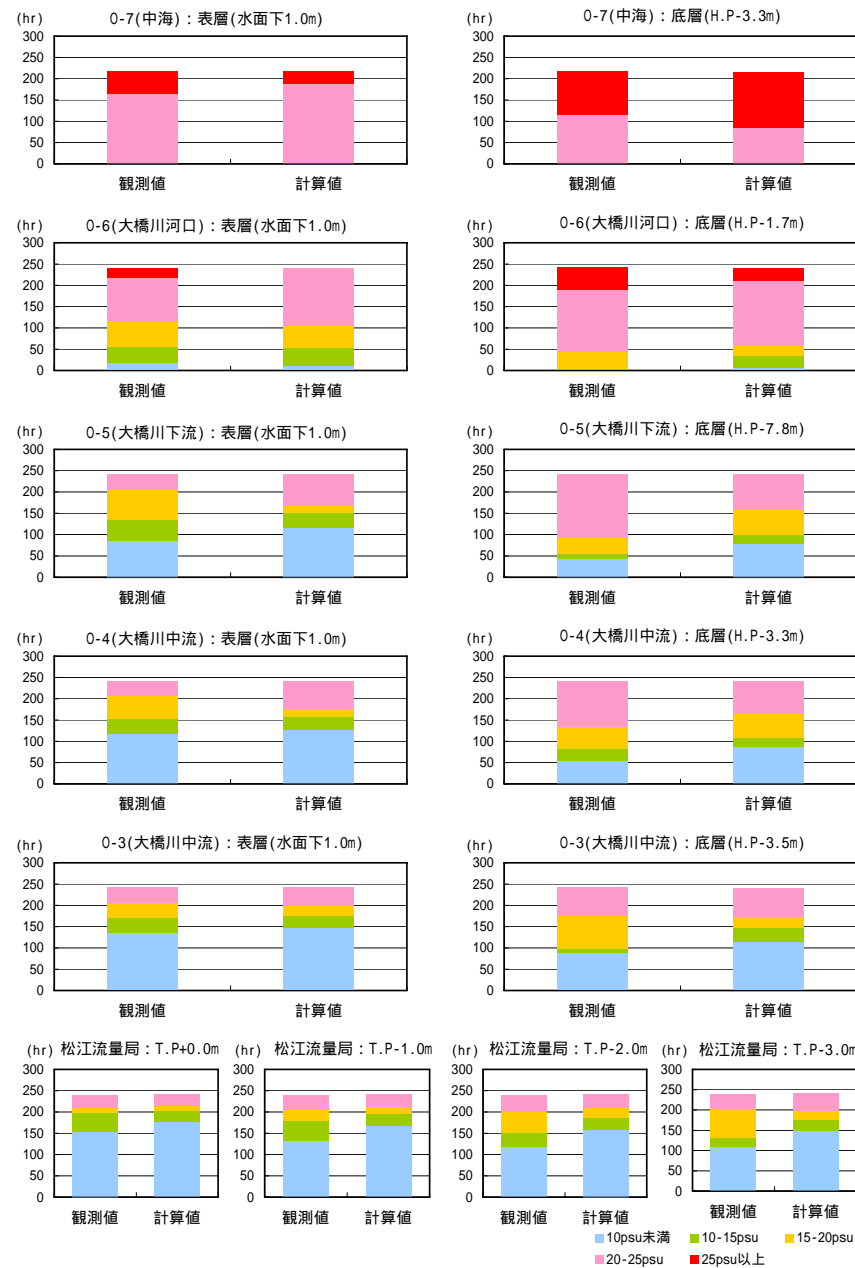
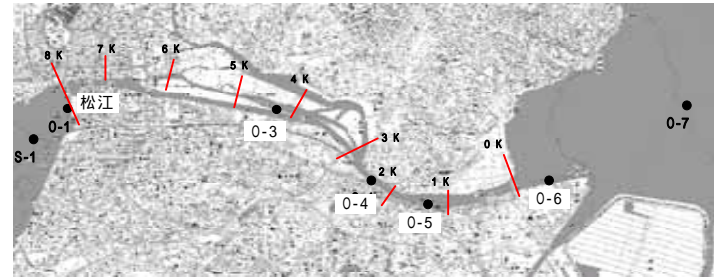


図 2.4 大橋川各地点における塩分の濃度別発生頻度

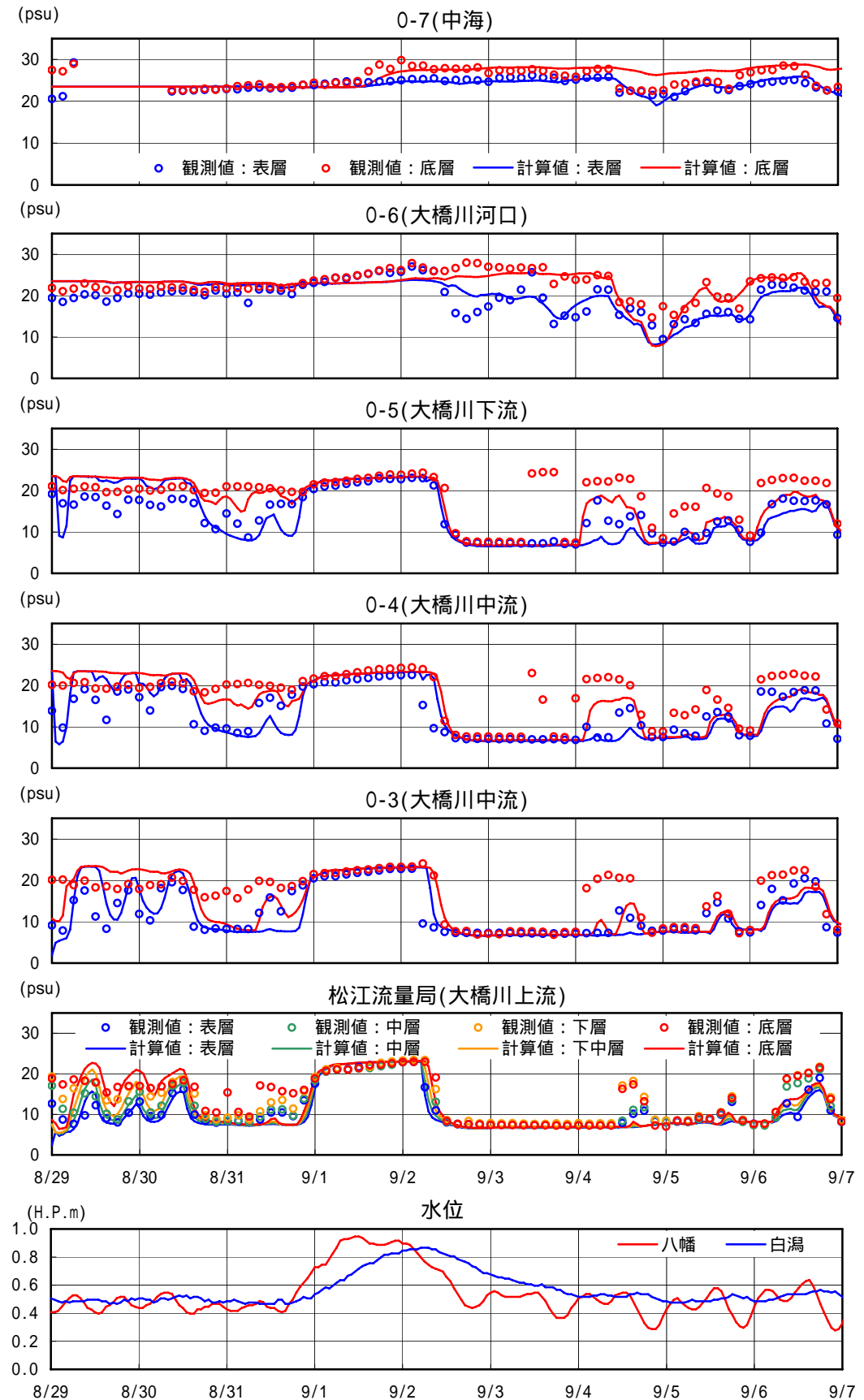


図 2.5 大橋川塩分の時系列変化(H14.8/29 ~ 9/6)

(3) 宍道湖の塩分

- 宍道湖の底層付近に形成される薄い塩分成層を良好に再現している。(平成12年を対象)

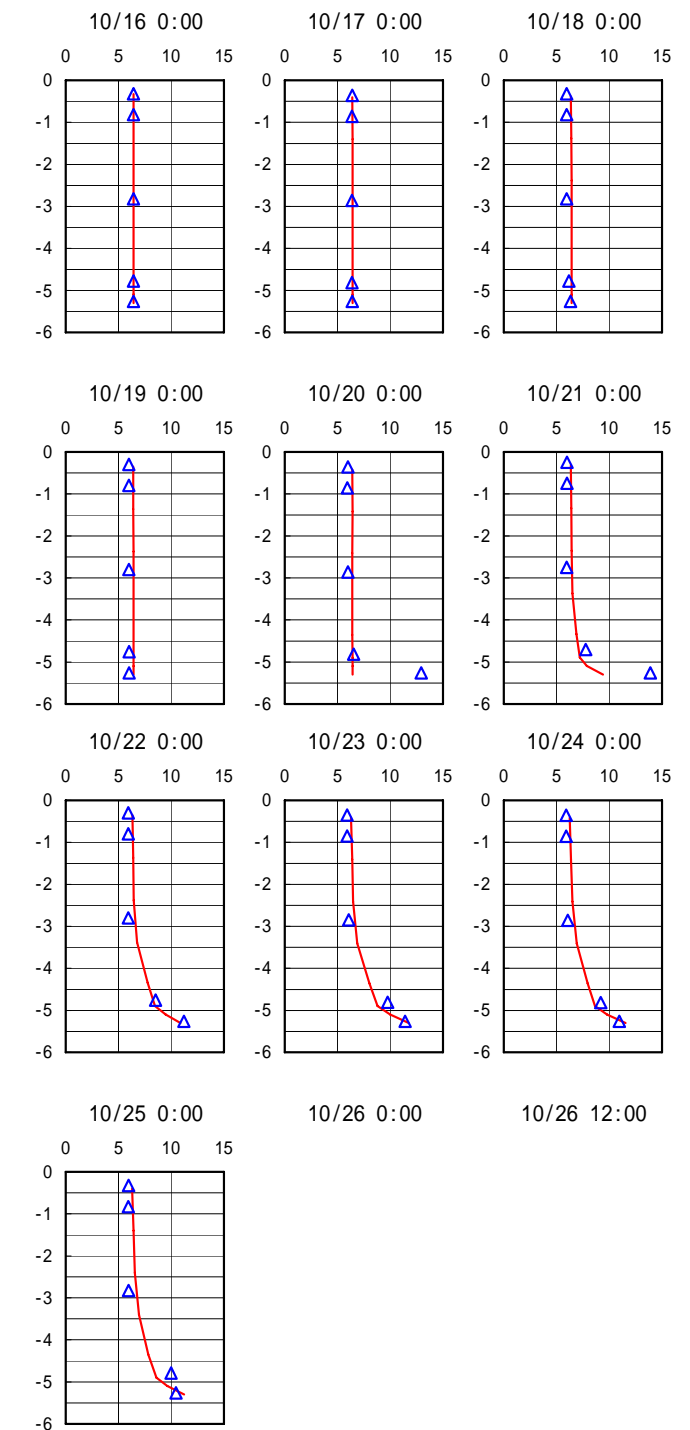
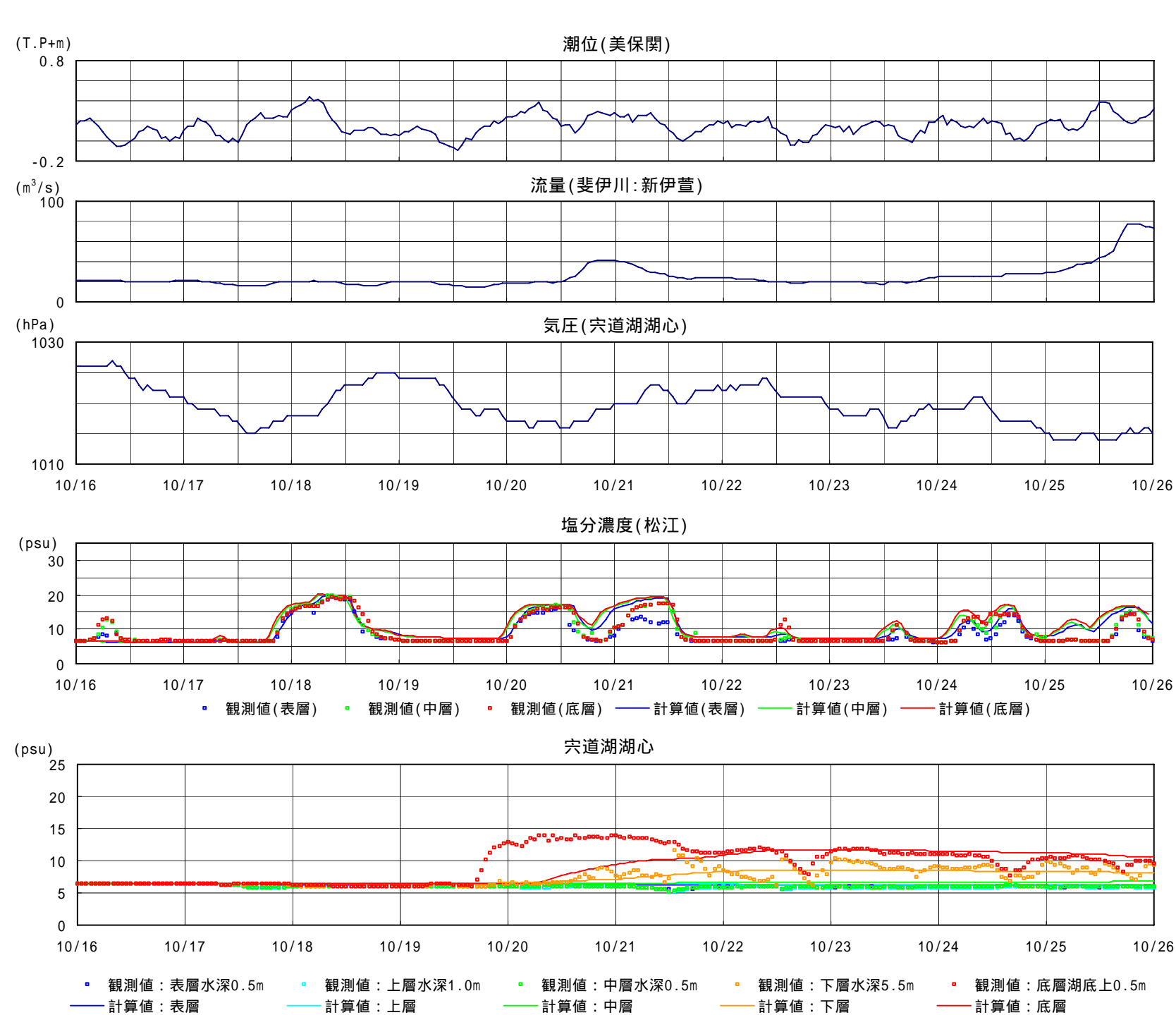


図 2.6 宍道湖湖心の塩分(H12.10/16~25)

・ 宍道湖の湖底に沿って広がる高塩分水を良好に再現している。(平成 14 年を対象)

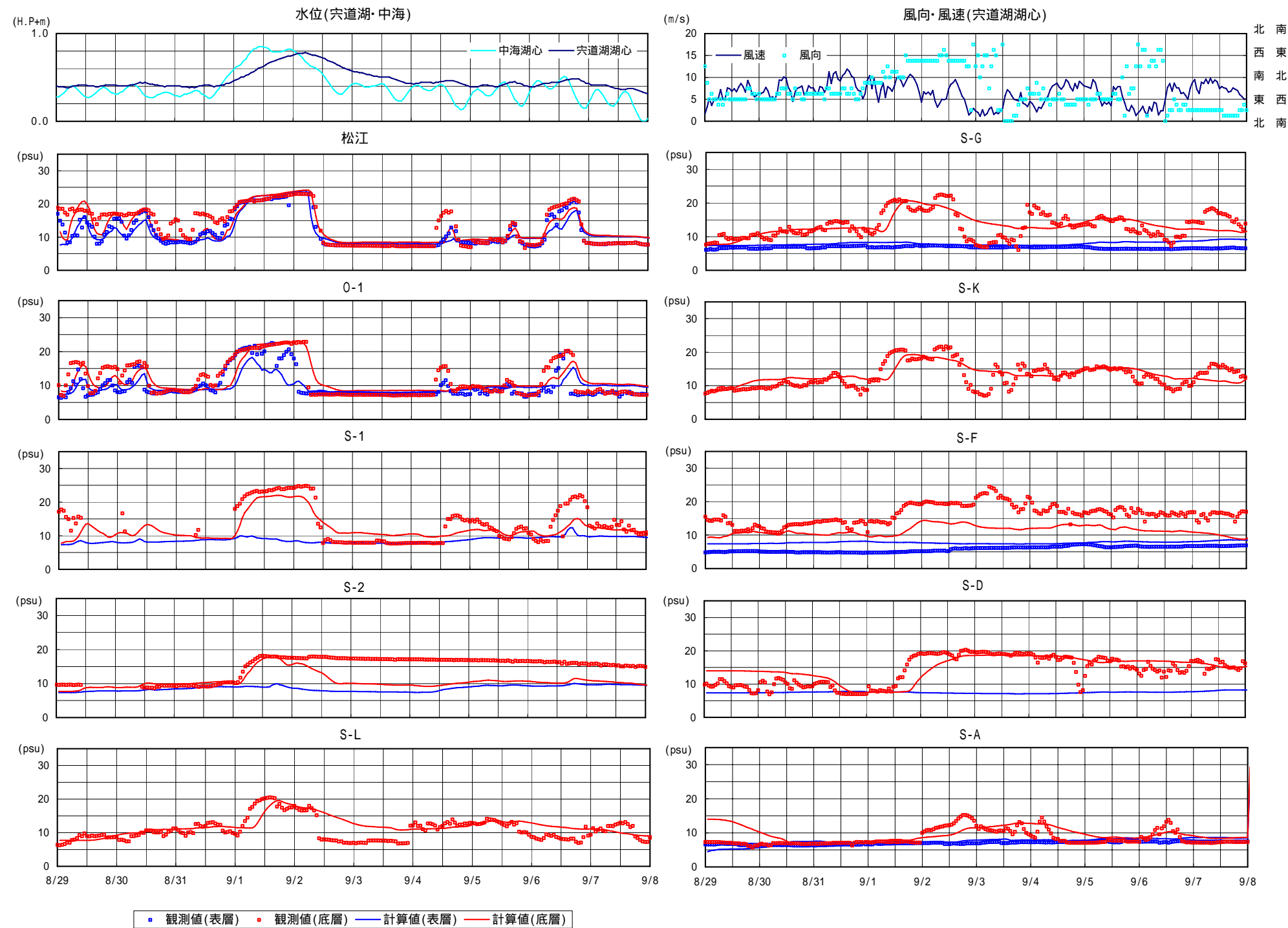


図 2.7 宍道湖流動調査地点の塩分(H14.8/29～9/7)

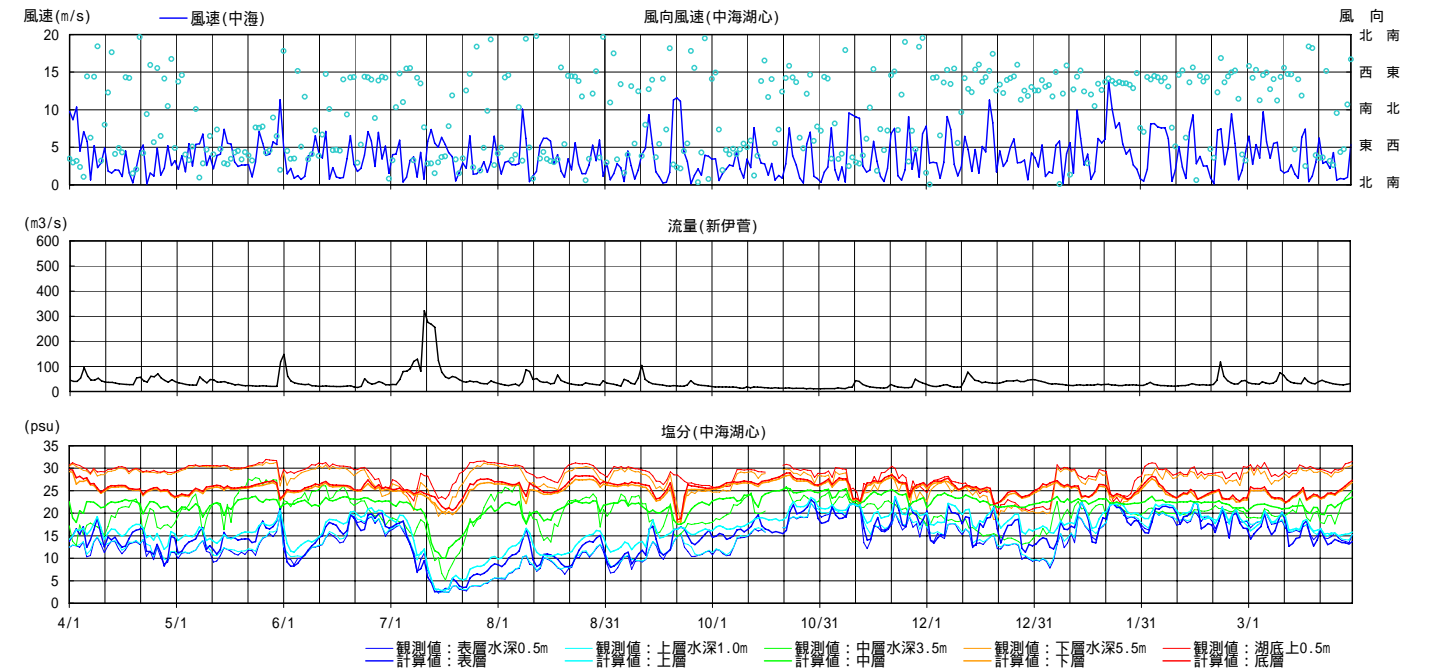
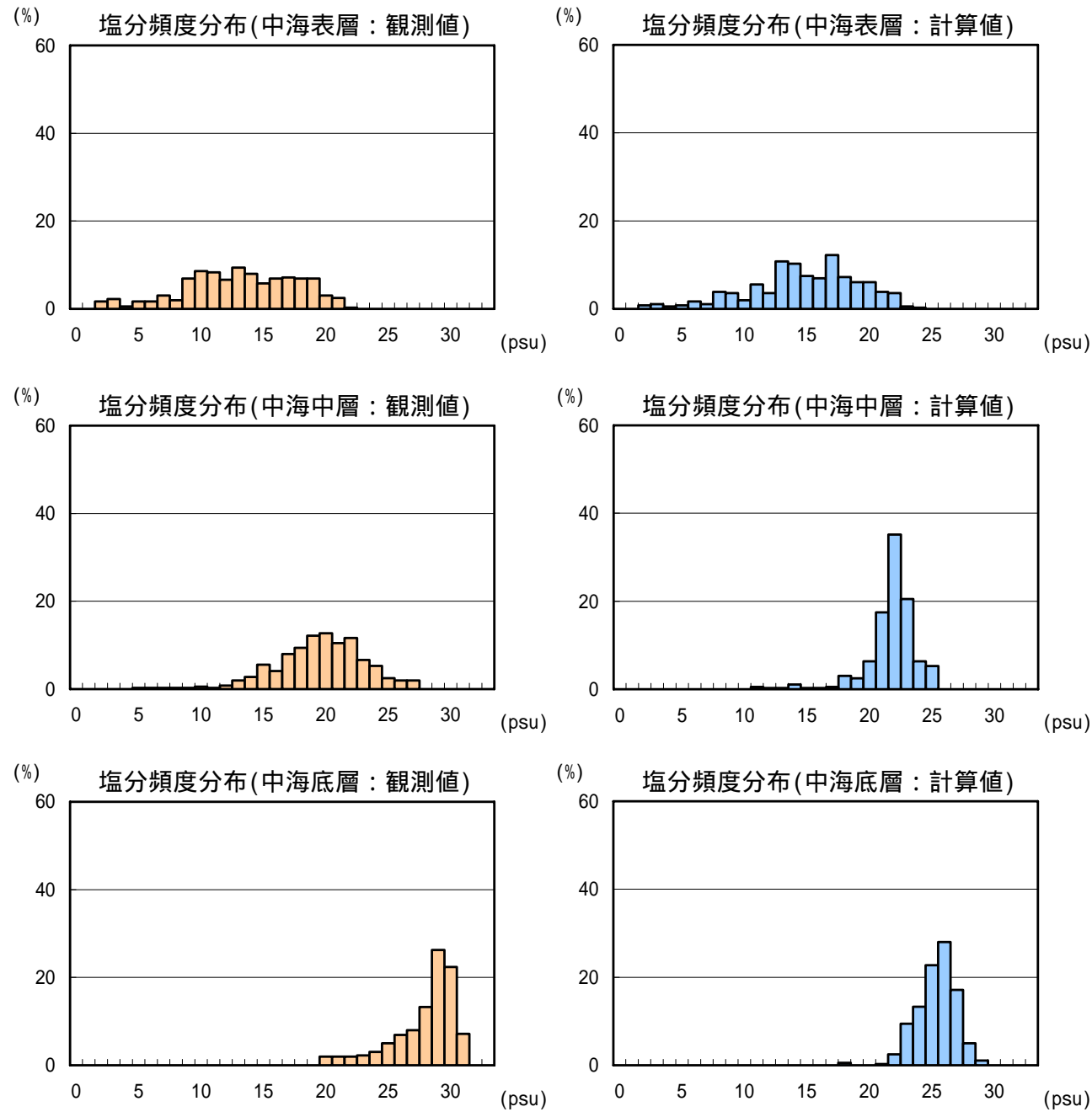
(4) 地中海の塩分

- 地中海の塩分成層を概ね再現している。(平成 15 年年間を対象)

【時系列変化】

【表層】観測値：2～21psu の範囲で変化。 計算値：2～22psu の範囲で変化。
 【中層】観測値：概ね 13～27psu の範囲で変化。 計算値：概ね 17～26psu の範囲で変化。
 【底層】観測値：変化範囲は 20～31psu と安定。 計算値：変化範囲は 22～30psu と安定。

【頻度分布】



【鉛直分布】

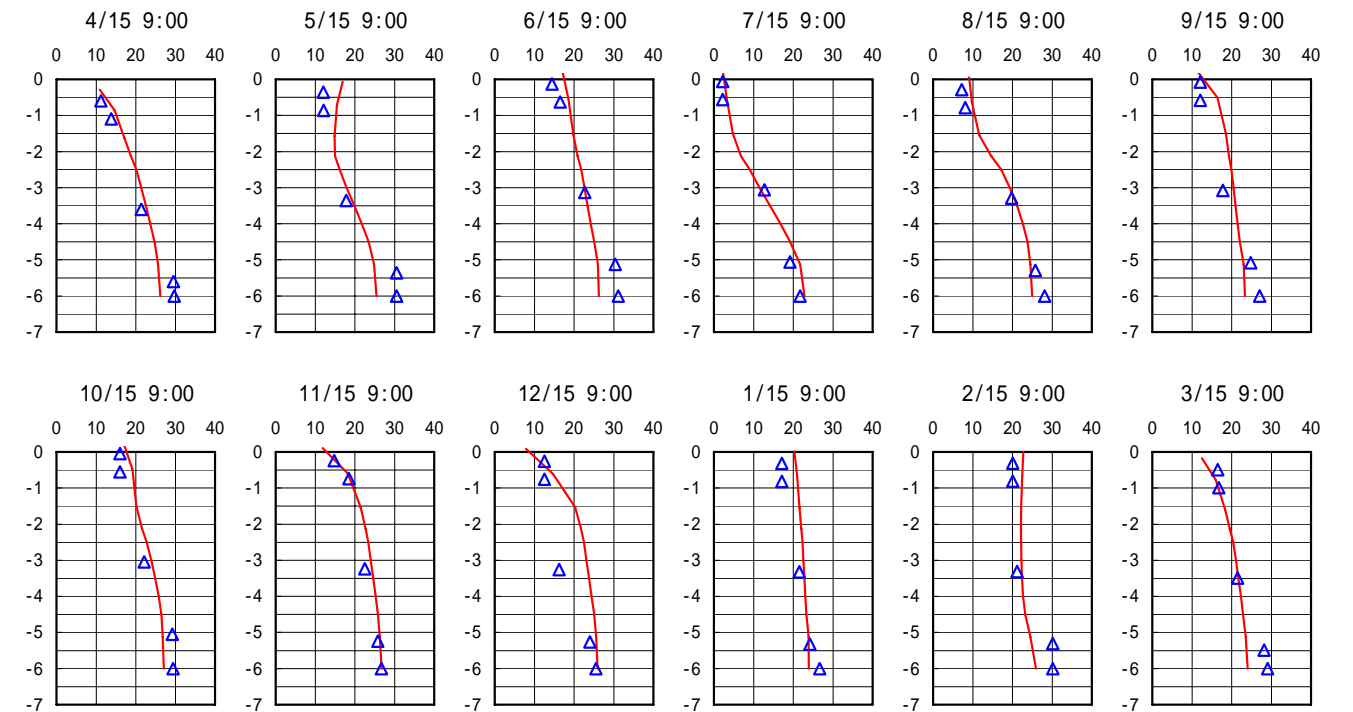


図 2.8 地中海湖心の塩分(H15.4/1～H16.3/31)